

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2025/9/30		
団体名	一般社団法人 ドウラシップジャパン	活動タイトル	「一人じゃないよ」妊娠出産サポートプロジェクト		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	「どんな人も自分らしくいられる社会」を目指しています。 特に子どもを取り巻く社会状況としては、性暴力被害にあった子どもは、その後二次被害にあいやすいという「暴力の連鎖」が起こる可能性が高くなると言われています。子どもの頃に性暴力にあった人が出産する際に「大切にされた」と感じられるケア（トラウマインフォームド・ケア）を受けることにより、被害の体験を乗り越え、自分らしく自信を持って生きられるようになり、それによって暴力の連鎖が起きない社会をめざします。		2025年6月 「性被害に向き合う 男性パートナーへの支援」講座の 写真 		
●団体の社会的役割（ミッション）	トラウマインフォームド・ケアが妊娠・出産する人たちに行き渡るように、様々なステークホルダーとともに学ぶ場を提供し、ともに考えることにより関係者間の連携を促します。妊娠・出産の経験が産む人にとって二次被害ではなくエンパワメントになるようにサポートします。				
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源： 日本各地を拠点とする多様なドウラ。協力的な医療者（医師、助産師、看護師など）、妊娠出産や性暴力被害に特化したメンタルヘルスの専門家。連携できる行政関係者、被害者支援関係者。広報・経理・事務を担当する専従スタッフ ●望ましい物的資源： 研修会等を行う際のプロジェクター、団体専用の通話窓口 ●望ましい活動資金： 会費、寄付、自主事業による収入が活動資金の大部分を占めることを目指し、有料会員数の20%増を目指す ●望ましい情報： 性暴力被害者の妊娠・出産時の支援についてのデータ、被害者のニーズ調査、出産施設についての情報				
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		2025年4月 出産サポートについてのドキュメンタリー上映会のポスター 	
●サバイバーの妊娠出産ドウラサポート サポート実施：1件 性暴力を受けたことのある方の妊娠・出産・産後期にドウラとして継続したサポートを実施した。サポート終了後には、サポートを受けた人、提供した人の両方にインタビューを実施し、トラウマ・インフォームド・ケアの効果を測った。 ●トラウマ・インフォームド・ケアに基づいた妊娠出産サポートの情報発信 上映会：9回実施（対面、オンライン）、妊娠出産経験者及び周産期ケア提供者など延べ242名参加 どんな人も安心して妊娠出産を迎えられることの大切さについて、ドウラへのインタビューの動画発信及びドキュメンタリー映画の上映会を行った。 ●サバイバーの妊娠出産に対する理解と啓蒙のための勉強会 勉強会：2回開催（対面） 性暴力を受けた方の妊娠出産サポートについて、ケア提供側として認識を深めるために専門家を招いて勉強会を行った。		●サバイバーの妊娠出産ドウラサポート ケアを受けた評価：妊娠出産サポートを受けた人の安心感／満足度の評価が2段階以上アップ。医療者のドウラに対する評価が3段階以上アップ ●トラウマ・インフォームド・ケアに基づいた妊娠出産サポートの情報発信 参加者事後アンケートの回答から「出産に主体的に向き合う気持ちが向上した」ことが読み取れ、産む人・ケア提供者両方にとってエンパワメントの機会になったことが評価された ●サバイバーの妊娠出産に対する理解と啓蒙のための勉強会 参加者事後アンケートの回答から「性暴力被害者についての現状の理解と、ケア提供者としての自信が向上した」ことが評価された (活動基盤の強化)活動できるドウラが増える ①ドウラのネットワーキングイベントを3回実施、ドウラのインタビュー動画を公開、そして他団体のドウラ養成を後援 ②養成講座は増加。自団体のメンバー向上には至っていない			
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）	
●一人の妊娠出産サポートには、トラウマ・インフォームド・ケアに理解のある多数の人や団体の関わりがあることで切れ目のない連携とケアが提供できることが証明された。これは今までに日本ではあまり研究数がなく、貴重なケーススタディとなった。関連学会に発表していく。 ●ドウラサポートの料金設定についてこれまで参考となる数値がなかったが、一定の目安を作ることができた ●これまでつながりのなかった海外の日本人ドウラと新たなネットワークを作ることができた。		出産ドウラが現場で活動する機会のない現状で、本プロジェクトでは他団体との協力によりドウラサポートが実現できた。まだまだ認知度の低いエリアであると思われるので、このケーススタディを発表し、理解を広め、今後さらに出産サポートが広がるよう努力していく必要がある。 経験の少ないドウラだと出産現場に受け入れられるのに困難な現状があるため、経験の豊富なドウラからのアドバイスやメンタリングなどを促進し、新規ドウラが育っていくのを応援する必要がある。 妊娠・出産・産後を通じて様々な団体やサービスと連携する必要があるので、地域の情報収集や、サポートを提供するドウラへの物理的、心情的支援を提供するため団体として資金やリソースを担保していきたい。		この1年間の活動を通じて 性暴力を受けた方が妊娠出産する際にトラウマ・インフォームド・ケアを受けることで、妊娠出産と、その後の子育てに自信を持って臨めることを証明すること を達成しました。	
				■ 受益者の具体的な変化（自由記入）	
		ドウラサポートを受けた方のEPDS（エジンバラ産後うつ病質問票という一般的な産後の精神状態のスクリーニング）でケア前は23点だったのが、ケア後は15点と大幅に減少し、有効性が確認された			